

令和6年度 学校評価結果報告

令和6年3月

徳島市立助任幼稚園

Ⅰ 令和6年度 学校評価について

(1) 本園学校評価の目的

本園では、教育活動その他の園運営について目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さについて評価することにより、園としての組織的・継続的な改善を図ることを目的として幼稚園評価を実施している。

(2) 本園の教育目標

- 望ましい環境の中で、豊かな体験を通して心身ともに健全な人間形成の基礎を培う。
<めざす子ども像> ・健康で安全な生活ができる子ども
・思いやりのあるやさしい子ども
・自分から取り組みががんばる子ども

(3) 令和6年度重点目標

- 幼児一人一人を大切にした保育を実践し、互いに認め合う心を育むための保育をめざす。
- 健康な心身や望ましい習慣、豊かな人間性、心情・意欲・態度など生きる力の基礎を育成する。
- 特別支援教育について関係機関と連携を図り、幼児一人一人の課題に応じた支援や指導方法を研修するとともに実践する。
- 家庭や小学校、地域との連携を密にし、幼児一人一人の全面的発達を促す保育実践に努めるとともに、幼稚園教育への理解を深め、地域に信頼される幼稚園をめざす。
- 全職員が専門職としての自覚をもち、資質の向上を図りながら、研修を推進する。

<研究テーマ> 『資質・能力を育むための幼児教育』

相手の思いに気付き、互いに認め合う心を育むための保育をめざして

(4) 評価方法

- 保護者評価(保護者による評価)・・・ アンケート方式、自由記述欄(無記名)
(幼稚園教育について・子どもの成長)
- 自己評価(教職員による評価)・・・ アンケート方式、自己点検、自由記述欄(無記名)
- 学校関係者評価・・・ 学校運営協議会での意見聴取

<評価公表について>

- ・評価を集計し、評価結果をまとめる。
- ・保護者にはアンケート結果及び考察を手紙で配布する。
- ・学校運営協議会で評価結果を公表し、意見を伺う。

2 自己評価の結果と今後の改善方策について

8つの項目について自己点検・自己評価を行い、その結果と保護者アンケートの結果を踏まえ、今後の改善方策を考察した。

教師13名、保護者77名中70名回答

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない E:わからない

(1) 幼稚園運営一般について (%)

観 点		A	B	C	D	E
教師	経営方針・指導計画・日々の保育に教育目標の具体化ができるよう努めている。	15.4	69.2	15.4		
	園務分掌が適切に分担され、担当者を中心に連絡調整して計画的に進めている。	23.1	69.2	7.7		
	教職員の話し合いが十分なされ、共通理解のもと協力して保育や園務ができている。	7.7	84.6	7.7		

- ・ 全職員が、経営方針や園務について共通理解して取り組むことができるよう、年度初めだけでなく、職員会等の機会に経営方針について話し、全職員が同じ方向に向かって取り組んでいくことができるようにしていきたい。
- ・ 園務分掌の適切な分担や教職員の話し合いについて適切・十分ではないと感じている職員がいる。個別に聞き取りも行いながら、いつでも教職員間で話し合い、協力し合うことができるような職場環境にしていきたい。

(2) 幼児理解・幼児指導について (%)

観 点		A	B	C	D	E
教師	幼児との信頼関係をしっかりと築き、幼児が安心して行動できるようにしている。	38.5	61.5			
	幼児の姿の変容を記録することにより、幼児の育ちを捉えている。		61.5	38.5		
	一人一人の発達課題を明らかにしながら、幼児の意欲や主体性を育てるきめ細やかな指導を心掛けている。	7.7	92.3			
	チーム保育による一人一人に応じた多面的な関わりで、発達支援を行っている。	38.5	61.5			
保護者	幼稚園は、子どものことをよく理解し、一人一人を大切にされた保育をしている。	75.7	21.4	1.4		1.4
	幼稚園は、子どもが伸び伸びと自信をもって活動できるように指導の工夫を行っている。	85.7	11.4	1.4		1.4

- ・ 担任している教師は、クラスの幼児について細かく記録し、幼児の実態を捉え、それに応じた関わりができてきている。日々の活動や幼児の心の動き・教師の援助と反省などを週録に記録していて、きめ細かな指導につながっている。担任外の教師は記録をしていないため、C「あまりあてはまらない」が多くなっているが、幼児の様子や幼児同士の関わりなどについて、担任とよく話し連携がとれている。一人の幼児に対して複数の教師が関わることで、多面的な関わりもできていると思う。さらに、幼児一人一人に対して同じねらいをもち、同じ関わりができるよう話し合いを大切にしていきたい。幼児一人一人について教師全員が共通理解し、保護者に幼児の様子や育ちを丁寧に伝えることで、保護者にも幼児一人一人を大切にされた保育ができていることを感じてもらえるようにしていきたい。

(3) 環境の配慮

(%)

	観 点	A	B	C	D	E
教師	様々な経験ができるように、人的・物的な環境を工夫している。	15.4	84.6			
	教師が率先して、子どもと一緒に遊び込んでいる。	7.7	69.2	23.1		
	戸外遊びに興味や関心がもてるような場づくりをしている。	7.7	84.6	7.7		
	幼児にとって魅力のある保育室や遊びの場を用意している。	7.7	84.6	7.7		
	遊びに必要な遊具や用具を幼児の目に付く位置に置いたり、必要なものを要求に応じて取り出したりできるようにしている。	30.8	61.5	7.7		
	安全面に配慮し、安心して遊べる場を工夫している。	46.2	53.8			
	幼児の遊びの状況を把握しながら、遊具を出したり片付けたりなど、環境の再構成に心掛けている。	23.1	69.2	7.7		
保護者	幼稚園は、子どもが健康で安全な生活ができるよう安全点検や避難訓練を実施したり、衛生面に配慮したりしている。	77.1	21.4	1.4		
	幼稚園は、子どもの興味や関心・季節を大切にしながら、環境の整備や工夫に努めている。	84.3	15.7			
	お子様は、幼稚園での生活を楽しみにしており、喜んで登園している。	68.6	21.4	8.7		1.4

- ・ 教師は、『戸外遊びに興味や関心がもてるような…』『魅力のある保育室や遊び』を環境として構成しているが、Bの回答が多くなっている。教師同士が幼児の実態について、よく話し合いながら、幼児が『やってみたい』と思うことができるような環境構成に取り組んでいくことが必要である。そのためには、まず教師が率先して幼児と一緒に遊び込むことが大切であり、その中で幼児の興味や関心を捉え、発達を踏まえて環境を構成していくことが重要である。そのような環境は、幼児にとっても魅力的な環境になるのではないだろうか。
- ・ 保護者アンケートで、数人ではあるが『幼稚園に喜んで登園できていない』幼児がいることがわかった。幼児が幼稚園での生活を楽しみにできるよう、幼児にとって魅力ある環境を構成していくことが必要である。全教師で幼児の実態を話し合い、年限や園全体で共通理解して環境を構成するようになっていきたい。

(4) 友達関係の把握

(%)

	観 点	A	B	C	D	E
教師	幼児との信頼関係をしっかりと築き、安心して行動できるようにしている。	46.2	53.8			
	友達とのつながりがもてる援助や遊びの提示をしている。	7.7	76.9	15.4		
	友達関係を丁寧に把握し、力関係の調整を適切に援助している。		100			
	問題やトラブルが発生したとき、その内容や意味を理解し、よりよい方向に導いている。		92.3	7.7		

- ・ 幼児は教師との信頼関係を基盤にし、遊びを通して友達関係を広げていく。教師は幼児と共に遊びながら幼児の思いを受け止め、幼児との信頼関係を築くことができるようにしていかなければならない。また、クラスの活動として、友達と触れ合い、つながりをもつことができるような活動を工夫し取り組んでいく必要もある。
- ・ 教師は、幼児同士の関わりの中で一人一人の思いをよく聞き、言葉で幼児の思いを代弁したり補ったりして幼児同士の気持ちの橋渡しをするなど、友達との関係がよりよくなるような援助をしている。時間が限られている場合もあるが、よく話を聞き、思いを受け止めていくことが、幼児との信頼関係にもつながり、友達同士の関係もよい方向に導かれるのではないかと思う。

(5) 基本的な生活習慣の自立

(%)

	観 点	A	B	C	D	E
教師	幼児のやろうとする意欲を育てる指導が適切にできている。	15.4	84.6			
	持ち物の整理や片付けなど、生活に必要なことのモデルとなっている。	30.8	61.5	7.7		
	いつも心をこめて、元気に明るくみんなに挨拶をしている。	76.9	23.1			
	幼児が人の話を聞く、話すなど、集団生活のきまりに気付かせる指導を工夫している。	23.1	76.9			
	教師が率先して戸外活動に取り組み、運動する楽しさや体力向上に向けての遊びを意識している。	15.4	76.9	7.7		
保護者	お子様は、挨拶や片付けなど、望ましい生活習慣が身に付いてきている。	40.0	52.9	7.1		
	お子様は、体を動かすことが好きになり、たくましく健康に育っている。	75.7	22.9	1.4		
	お子様は、好き嫌いをせず、食べることを楽しみ、自分の体や健康に関心をもつようになってきている。	32.9	38.6	25.7	2.9	
	お子様は、自分でできることは自分でしようとする力が身に付いてきている。	47.1	44.3	7.1		1.4
	お子様は、集団生活のルールやマナーが身に付いてきている。	44.3	51.4	2.9		1.4

- ・ 教師は基本的な生活習慣の自立のため、生活の中でよいモデルとならなければならないと思う。挨拶については、100%の教師が心を込めて明るく元気に挨拶ができるようにしていかなければならない。
- ・ 基本的な生活習慣の確立には年齢差や個人差があるため、これからも幼児一人一人に応じたきめ細かな指導をしていきたい。
- ・ 幼児の実態として、幼児が自分でできることを保護者が先にしてしまったり、誰かにしてもらおうとしたりする傾向がある。『自分でできることは自分でしようとする力』については、幼稚園生活の様々な場面において育まれるものであり、そのような場면을教師がしっかりと捉えて援助していく必要がある。
- ・ 偏食のある幼児が多い。幼稚園ではみんなで同じ物を食べる機会が少ないが、野菜の栽培や調理を通して食育を行っている。家庭と協力しながら食育に取り組み、食べ物や自分の体、健康に興味をもつとともに、食に関わる人に感謝の気持ちをもつことができるようにしていきたい。

(6) 指導計画・評価

(%)

	観 点	A	B	C	D	E
教師	年間計画や指導計画の中で、季節に応じた遊びの流れや環境を計画的に取り入れている。		84.6	15.4		
	日々の保育を記録し、省察して次の計画に生かし、保育内容の充実を図っている。	7.7	69.2	23.1		
保護者	幼稚園は、教育目標に沿って有意義な教育活動を行っている。	82.9	17.1			
	幼稚園は、子どもの成長・発達にとって意味のある行事をしている。	90.0	10.0			

- ・ 年度当初に、教育課程や指導計画を確認し合い、指導計画をもとに幼児の実態を捉えて実践を重ねている。毎月、指導計画を見直していくと、次の年にまとめてしなければならないということが起こらない。様々な活動や行事についても、記録し反省していくことで次の計画に生かしていくことができる。研修の時間は取りにくいですが、PDCAサイクルを意識して、教師間で共通理解を図りながら、園全体の教育力が高まるよう実践していきたい。
- ・ 保護者の方は、幼稚園教育についてご理解いただき、様々な教育活動や行事が有意義であると感じてくれている。引き続き、活動や行事について、目的や意味をしっかりと伝え、保護者にも納得していただくことができるようにしていきたい。

(7) 保護者への対応

(%)

	観 点	A	B	C	D	E
教師	幼児の姿をわかりやすく伝え、保護者とのコミュニケーションを十分とろうとしている。	30.8	61.5	7.7		
	保護者の声や意見を十分聞き入れて、園生活や園行事に生かしている。		92.3	7.7		
	保護者と密な連携をとり、幼児の育ちを支える保育を展開している。	7.7	76.9	15.4		
保護者	幼稚園は、園だよりや配布物、降園時の連絡、ホームページなどを通して、幼稚園の教育活動についてわかりやすく伝えている。	64.3	32.9	2.9		
	保護者との連携を大切に、相談に応じたり家庭への連絡を行ったりしながら、子どもの成長を支援している。	72.9	21.4	5.7		
	あなたは、子どもについて教師と話したことを子育てに役立てている。	74.3	24.3	1.4		

- ・ 教師は保護者とコミュニケーションをとり、連携して幼児の育ちを支えていこうと考えているが、中にはそれができていないと感じる教師もいる。また、保護者の中には、『幼稚園教育をわかりやすく伝えられていない』『保護者との連携を大切にしていない』と感じている方もいる。幼稚園と家庭が連携し、幼児の成長を支えていくことは重要なことであり、話をしやすい雰囲気作りを心掛け、登降園時には幼児の生活する姿や育ちを伝え、保護者との信頼関係を築いていくようにしたい。
- ・ 保護者からの要望や意見、幼児についての話などは、全教師が対応できるよう、教師間の報告・連絡・相談を徹底し、共通理解していく必要がある。それが保護者との信頼関係にもつながっていくと思う。

(8) 教師の資質向上

(%)

	観 点	A	B	C	D	E
教師	外部の研究会や研修会に参加し、研修成果を実践に生かしたり、園内で研修したりした。	7.7	46.2	38.5	7.7	
	教師自身の保育の評価・反省を行い、改善を図るよう努力している。	23.1	61.5	15.4		
	教師の人権感覚を磨き、人権尊重の精神を育む保育実践に努めている。	30.8	69.2			

- ・ 外部の研修会に積極的に参加している教師は少ない。園内研修の時間もなかなか確保できにくいのが、教師の資質向上が幼児の育ちにもつながることを踏まえ、市教委主催の研修会で学んだことを全教師に伝え合う時間をつくる必要がある。園内での研修のもち方を工夫して実施し、様々な研修で得られた知識や技術、感覚や感動を保育に生かすことができるようにしていきたい。
- ・ 幼児に寄り添い、温かい気持ちで受け止める教師の姿勢が幼児にも伝わり、友達の思いに気付いたり、思いやりの気持ちで関わったりする姿となっている。幼児一人一人に丁寧に関わるのが、幼児期の人権教育につながっていると思う。教師自身が余裕をもち温かい気持ちでいることが、幼児にとって豊かな人的環境の一つとなっている。教師自身が様々な事柄に興味をもち、自ら体験し感じることで、人権感覚を磨いていく必要がある。

3 学校関係者評価の結果と今後の改善方策について

(1) 学校運営協議会について

○ 今年度の教育活動及びアンケート結果について

- ・ 今年度の研究課題として『相手の思いに気付き、互いに認め合う心を育むための保育をめざして』というテーマで取り組んだ。年度当初に話し合った中で、年長児でも「自分を主張する幼児が多い」「認められたいという思いの幼児が多い」という実態を共通認識し、このテーマを設定した。
- ・ 本園の教育については、『幼稚園は幼稚園の教育活動についてわかりやすく伝えている』『保護者との連携を大切にし、相談に応じたり家庭への連絡を行ったりしながら子どもの成長を支援している』という項目で『あまりあてはまらない』と回答した方が多くなっている。しかし『あなたは園だよりなど幼稚園からの配布物をよく読んでいる』ではほとんどの方が『あてはまる』と回答されている。この結果から、発信の方法をもっと工夫し分かりやすくしていかなければならないと感じた。
- ・ ホームページの『幼稚園の生活』では「こんなことがありました」とお知らせするだけでなく、その遊びや行事の中で、どのようなことをねらいにもち、何が育っているのかも書くようにしている。
- ・ 保護者との連携については、教師自身も、子どもの様子を伝えるだけでなく、保護者の思いを受け止め、それを意識していかなければならないと感じている
- ・ 子どもの生活や成長に関するアンケートでは、年限によって差があると思うが、『自分の思い通りにならないときに我慢できる』『自分の思ったことを言葉で表現する』の項目では、6月のアンケートよりもよい結果となっており、幼児の成長が感じられてうれしく思う。

- ・『好き嫌いをせず、食べることを楽しみ、自分の体や健康に関心をもつようになってきている』という項目でも6月と比較すると『あてはまる』が多くなっているが、まだまだ他の項目と比較すると課題が多い。みんなで同じものを食べる機会が少ないため、野菜の栽培などを通して食育に取り組んでいる。今年度はカレーパーティーややきいもパーティーも実施することができた。

○ 学校運営協議会委員の意見・感想

- ・ 幼稚園は園だよりや配布物などで、幼稚園の教育活動を分かりやすく伝えられていると思われていない保護者がいるが、最近は何でも携帯でやりとりをするようになってきている。学童でも小学校と同じ連絡アプリを使用している。先生の負担は大きくなるが、ホームページやマチコミを利用する方が保護者は見てくれるのかもしれない。
- ・ 防犯対策については、保護者も安心して預けるためにはとても必要なことだと思う。防犯カメラは小学校に設置している。次は中学校で幼稚園はその次になる。
- ・ 以前は地域とのつながりがあったが、コロナ禍でなくなり、それが復活できていないことがたくさんあるのではないかと。また、ベルマークやペットボトルのふたの回収などPTA活動も少なくなってきており、寂しさを感じる。最近是人と人のつながりが希薄化している。

(2) 来年度への課題および改善方策

- ・ 保護者との連携については、保護者が気軽に声を掛けていただけるよう、保護者との信頼関係を築くとともに雰囲気づくりに心掛けていきたい。
- ・ 幼稚園教育や園の教育方針については、ホームページを活用して保護者や地域の方にわかりやすく伝えていくようにする。マチコミアプリを活用し、園だよりや配布物も保護者に周知できるようにする。
- ・ 防災については、職員間で危機管理を徹底するとともに、引き続き中学校とも連携して様々な場面を想定した避難訓練を実施していく。
- ・ 基本的な生活習慣の確立のため、食育や体力向上に向けての教育内容について工夫して取り組み、保護者に対する啓発にも力を入れていきたい。
- ・ 幼児が地域とのつながりを感じることができるよう活動を工夫するとともに、保護者からいろいろな情報をいただき園外保育等で地域へ出て行くなど、多様な経験ができるようにしていきたい。
- ・ 幼稚園教育の重要性をたくさんの方に理解いただくために、幼稚園生活の様子や未就園児園園開放についての告知など、発信に力を入れていきたい。